

町に古くから残る伝統文化 新年の五穀豊穡を願う弥生画

新年の五穀豊穡を願う当町の伝統文化「弥生画」が完成し、昨年の年末に奉納されました。

当町で弥生画を制作しているのは、山道弥生画保存会（小野寺秀昭会長）と元町弥生会（澤田記成会長）の2団体。両会ともに8～9月頃に下絵を描き、11月下旬から種子の貼付作業を行います。作業場には連日、子どもから大人まで集まり、縦2m、横3mほどの巨大な板に描かれた下絵に合わせ、細長いようじを使って野菜や穀物の種子を貼り付けました。

山道弥生画保存会では、同地区の老人憩いの家で大人が「花咲か爺さん」、子どもたちが今年の干支「未」を題材にした弥生画を制作し、昨年の12月30日に同地区のくろおかみ闇籠神社へ奉納。また、元町弥生会では、鶴田八幡宮神楽殿で「岩木山とえびす恵比寿大黒」を制作し、同月31日に同神社へ奉納しました。

元旦には多くの参拝客が初詣に訪れ、鳥居に掲げられた弥生画を見ながら、新年に願いを託していました。



山道弥生画保存会



元町弥生会

Event

平成26年度町社会福祉大会 地域福祉活動の意識を高め合う

12月24日（水）、町保健福祉センター「鶴遊館」で鶴田町社会福祉大会が開かれ、町民や福祉関係者約200人が福祉活動の意識を高め合いました。

式典で、町社会福祉協議会の中野撃司会長が「大会は福祉のあり方を考える機会として意義深い。皆さまの労苦に対して敬意を表したい」とあいさつ。続いて、町の社会福祉事業に貢献した27団体と35人に対し、顕彰状や感謝状などが贈られました。また、福祉作文コンクールに入選した町の小中学生19人が表彰され、最優秀賞を受賞した川村侑女さん（胡桃館小6年）と上原雄永君（鶴田中3年）が作文を発表。川村さんは、「相手の心を温かくする思いやりのある言葉のやりとりが大切です」と話していました。

式典前には、県立中央病院の小野正人先生が「ピンピンコロリの基礎知識」と題して講演。運動器の機能低下予防に効果のあるロコモーショントレーニング（ロコトレ）を参加者で行っていました。



①

①福祉作文コンクール入選者が表彰されました。
②コンクール中学校の部最優秀賞者の上原雄永君
③小野正人先生（右）と一緒に「ロコトレ」を実践



②



③



△協定書に記名・押印する出席者

より良い家族経営を目指す

責任とやりがいのある家族農業経営を目指し、経営方針や役割分担など、家族が働きやすい就業環境について取り決める家族経営協定の調印式が1月26日（月）、町役場で行われ、農業を営む8家族が協定を結びました。出席した家族は、農業委員会会長ら関係者の立ち会いのもと、就業条件や収益配分などの項目が記載された協定書に記名・押印し、より良い家族経営に向け気持ちを高めていました。